

おおぞら

第20号

・発行
安来地区保護司会
・事務局
やすぎ更生保護サポートセンター
広瀬町広瀬802
TEL (0854)26-4181
題字 佐々木 實



母里小学校「総合学習」の稲刈り

更生を支える地域の ちからは地域のたから



松江保護観察所 所長
山本 隆宏

平素対象者への指導や支援、各種の地域活動、保護司会活動など保護司として多方面に活躍され地域のために御尽力を賜っておりますことに感謝申し上げます。

本年4月に当地に着任し島根県の更生保護のお仲間に入れていただきました。この紙面では初めてお目に掛かることになりました。御指導賜りますようよろしくお願いします。

さて、当地に転じて驚いたことがいくつもあります。そのひとつが「安来地区の保護観察係属件数が非常に少ない」ということです。島根県に初めて住む私も、当地について、市域には数万の人口を有し、特急も停まり、古くからの企業城下町で活気ある工業都市と見聞きしています。保護観察事件がほとんどない

保護区は各地にあります。が、このような都市域を有し相応の人口がある地域での例は聞いたことがありません。当地の保護司や更生保護女性会の皆さまを始めとして地域の人々が子どもたちの健全育成・非行防止にいかん力を注いでおられるかが数字となって表れているのだと思います。そしてこれに加えて思うのは、以前はもつと件数が多い時期があつたはずであり、その頃保護観察を受けていた人々がその後それぞれの改善更生を果したからこそ、今の状況があるのだという事です。更生しようとする当人の努力とそれに寄り添い支援し続けた皆さま方やその先達の方々の営みがあり、その成果が今なお持続しその恩恵を私たちが受けているのだと気が付かされるのです。改めて保護司の役割のありがたさ・偉大さに思いを至す次第です。

昨年12月に再犯防止推進法が施行され、国・地方公共団体・民間が連携して取り組むこととされました。更生を支える皆さまのからは地域のたからでもありません。この思いで取り組んでまいります。御指導くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

第67回社明大会

去る7月5日(水)、広瀬中央交流センターで、『第67回『社会を明るくする運動』平成29年度「青少年の非行・被害防止全国強調月間」安来市推進大会』を開催しました。

この大会は毎年7月が『社会を明るくする運動』強調月間と位置づけられることを踏まえて、犯罪や非行のないまちづくりを推進するために安来市推進委員会を組織して毎年この時期に開催しています。

当日は天候がすぐれないなかでも2000人の参加があり、秋間安来地区保護司会長の挨拶に続き、内閣総理大臣のメッセージや県知事・県警本部長・県教育長連名発信の青少年非行・被害防止メッセージを受信した安来市長(大会実施委員長)が挨拶し、その後来賓の松江保護観察所長から祝辞を頂戴しました。



さらに、前年の『社会を明るくする運動』作文コンテストにおける優賞作品2点のうち、代表して小松原優真さん(伯太中学校3年)が朗読披露しました。
また、祝辞を頂戴した松江保護観察所の山本隆宏所長を講師に迎えて、「もどらない。もどさない。更生保護にご支援を」と題した基調講演を実施し、不幸にして罪を犯してしまった人達をいかにして更生の道に導いていくか、また再犯を防ぐためにできることは何かを紹介しながら、地域社会における課題について意識の共有を図り、最後に大会宣言を採択して閉会しました。
おわりになりましたが、大会開催に際して安来地区保護司会の皆様には大変お世話になりました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

(大会実施委員会事務局)



中国地区保護司代表者協議会に参加して



安来地区保護司会 会長 秋間 近夫

本年度は、山口市で10月5・6日に開催されました。中国五県から70名の保護司が参加し、島根県からは坂本会長以下8名が参加しました。

更生保護の現在抱える諸課題について、4分科会に分かれ活発な研究協議が行われました。

分科会の協議議題は、第1分科会が「保護司の安定確保のための効果的な方策」、第2分科会が「保護司研修のあり方」、第3分科会が「更生保護三者、そして地域の医療、保険、福祉等関係機関や自助グループ等民間支援組織との連携」、第4分科会が「複数担当制などこれからの保護司の事件担当のあり方」

で、1日目が協議、2日目が各分科会からの発表スケジュールでした。私は当初第3分科会を希望していましたが、山本松江保護観察所長が助言者である、第4分科会の発表者に変更となり、お陰で1日目の懇親会の後、山口の夜を楽しむ余裕などなく、翌日の発表の取りまとめに頭を抱える一夜となりました。2日間を通じ、広島県、岡山県では保護観察件数が島根県の5倍を超える地区の保護司の皆様は体験や発言は大変参考になり目からうろこの心境でした。

第4分科会では、座長の発案で保護司としての心構えをまとめました。「相手の立場にたち、愚直に辛抱強く、見離さない、見逃さない」岡山県の保護司の方の意見を参考に全員の賛同を得てまとめましたものです。とても深みのある言葉ではないでしょうか。



小学生の部優秀作品

「社会を明るくする運動」

島根県推進委員会委員長賞

みんなであつくりよう！
いじめのない明るい未来を！
 安来市立南小学校6年
林 愛結

毎日、新聞を見てみると、人が死んだという事件や事故が多く書かれています。「人の死」の中でも私の心に一番つきささるのが「いじめによる自殺」という記事です。私は、そんな記事を目にするたびにいつも思う事があります。いじめには、いじめの人といじめられる人がいる。いじめられ、自殺してしまった人には、相談できる人がいなかったのか。そして、いじめめる人は何で人の心や体を傷つけてしまうのか。

私のクラスは「いじめ」はありません。例えば、だれかがまちがった事をしていたら、友達がその人に教えたり注意したりしています。そして、その人は「ありがとう、教えてくれて。」と、それを認めてくれます。私は、みんなと過ごしてきて「ケンカといじめはちがう」と思うようになりまし。友達がケンカをする時があります。でも、それはお互いを信頼し合っているからこそ何でも言

い合えるのだと思うのです。だから、お互いの考えや思いが通じなくて言い合いになったりしても、時間をかけて歩み寄ったり、相手を受け入れたりできます。相手を思い合えるじまんのクラスです。私はこのクラスが大好きです。

私の妹は、今、小学三年生です。一年生の時に、目の病気で小児弱視と診断されました。その時から度のきついメガネをかける事になりました。「メガネをかけるなら絶対学校に行きたくない！」妹がそう言いました。私も家族もその言葉を聞いて悲しくなりまし。メガネをかけて学校に行ったら、からかわれる、笑われる、と思ったのです。いつも明るく前向きな妹のその言葉は衝撃でした。私も妹がだれかに何か言われるのでは、と心配しながら学校へ行きました。すると、当時の私の担任の先生が「雅結さんのメガネ、宝石みたいにきれいなピンク色とてもステキだね。」と言ってくれました。クラスの友達も上級生も「まゆうちゃん、かわいい！」「そのメガネ似合ってるね。」「私もそんなメガネしたいな。」と言ってくれたそうです。その時の妹の嬉しそうな顔は忘れられませ。この時「変なの。」「似合ってるない。」など、言われていたら、妹はどうなっていたのだらうと、こわく感じました。「いじめ」の一つには、人と違った外見の事だからだったりして平気で人を傷つける事があります。たった一言で人の気持ちは良くも悪くも大きく変

わると思っています。「すごいね」「がんばって」など、嬉しくなる言葉をかけてもらえると、それだけで明るい気持ち、前向きな気持ちになります。でも、世の中は明るい言葉だけではありません。「死ね」「気持ち悪い」「来るな」など、人を深く傷つけ暗い気持ちにさせる言葉があり、そんな言葉を平気で発する人もいます。だから新聞では「いじめで自殺」という痛ましい記事がなくならないのです。一人でも注意をする人が増えればいじめは減っていくはずですが、でも、注意をする人も大きな勇気がいると思います。注意をして自分がいじめられるのでは、と思う気持ちも分かるし、だから仕方なく一緒にいじめめる側になってしまいう人もいるのかもしれない。

「いじめ」をしてしまう人でも、生まれて最初から悪い人はいないと思います。友達や家族、だれからも気持ちを分かってもらえないまま、育ってきたのではないでしょう。だから、悲しい苦しい思いをしている人の気持ちから目をそむけてしまうのではないのでしょうか。

私は小さい頃からお母さんにずっと言われている事があります。「自分もしいじめられても、決していじめめる側になつてはいけない」「自分がいやだなと思う事は絶対に

人にしてはいけない」と。私は、まちがった事をしている人がいたら、ちゃんと自分の口でその事を伝えたいと思います。勇気がいるしこわいけど、そういう小さな事から勇気を出して伝えられる人になりたいです。そして、私は、もっと多くの人にほんの少しでもいいから勇気を出して自分の出来る事をやってみませんか！と伝えていきたいです。私達が今出来る事は、相手の気持ちになって考える事だと思えます。「思いやり」の気持ちをもち、人との関係を大切にしていける事、いじめを減らしていけると思っています。

最後に、新聞にはよく「容疑を否認している」とあります。この一文を見て思います。自分がやってしまった事はきちんと認めて、つぐなつてほしいと。そうでないと、また同じ事をくり返しなが生きていく事になり、自分を一生変えられないと思うからです。一度やってしまった事を元に戻す事は出来ません。けれどこれからだと思えます。これからどんな事をしていくか、自分自身でいくらでも未来を変えていける、と私は思います。二度と同じ事を起こさないよう、深く考えてほしいです。一人ひとりが「今」の自分を見つめ直し、いじめなどのない明るい未来、明るい社会をみんなであつくりたいです。



中学生の部優秀作品

島根県更生保護女性連盟会長賞

地域とつながること



安来市立
広瀬中学校3年
吉田 奈央

広瀬町には、地域の行事がたくさんあります。私は最近、行事に参加する人が減ってきたと感じました。

私は小さいころから、できるだけ町内の行事や広瀬のイベントに参加してきました。一時、町内行事で特に人が減ったと感じたのが毎年夏にやる町内バーベキューです。私が小さい頃は、お年寄りや若い人、子供たちがたくさん来て、遊んだりしていました。でも、私が小学四年生のころから参加する人が少なくなってきました。しかし、近年また参加者が増えつつあります。なぜ人数が増えたのか、私は考えてみました。そして、「以前は大人中心で楽しんでいただけ、だんだん子供たちも楽しめるか

き氷や花火なども行われるようになったこと」が理由ではないかと思いました。

そして、楽しんで遊んでいる子供たちを見に、お年寄りもまた集まるようになってきているのではないかと思います。

また、広瀬のイベントにはえびす祭りやひな祭りなどお祭りがたくさんあります。私の住む町内で行っている「盆踊り」の参加者が減っているのを、手伝いをしながら実感し、さみしく思っています。特に、小学生や中学生があまり来なくなっているのです。昨年は、場所が以前と変わったことでもあってやはり人数が少なかったですが、小さい子供たちがたくさん来てくれて、とても楽しかったです。そこで、もっと参加してほしいと思った私は、交流センターで行っている夕涼み会の手伝いの時に、小学生に盆踊りで使える券を配って、たくさん来てくれるように工夫しました。そのかいあって、あいにくの雨ながら小学生がたくさん来てくれました。にぎやかに遊んでいます。でも、中学生や高校生、大人は全然来ていませんでした。私はとても残念に思

いました。

最近の子供たちは、家中で遊ぶことが多くなり、タブレットやスマホ、ゲームなどを使って個人で楽しんでいることも増えてきています。子どもだけではなく、中高生や大人も同じです。だから、いま広瀬で何をしているのか、広瀬にどんなものがあるのか、わからない人が増えていると思います。だから、地域の行事に参加しなくなり、地域の人の関わりも減ってしまっているのだと思います。子どもから大人まで、地域で交流をしてたくさんの人と関われば、お互いに仲良くなれて広瀬がもっと住みよい町になっていくと思います。そのために、私は、ポスターなどで呼びかけたり、子供から大人まで楽しめるイベントを考えたいです。そして、日ごろから広瀬のことを意識して生活していきたいです。私は、毎朝地域の人にあいさつをしています。それもひとつの取組だと思っています。地域のみなが、お互いに関わり合い、支え合っていくことで、将来どんな広瀬になっていくのか、とても楽しみです。

第67回社会を明るくする運動作文コンテストを小中学校に募集したところ、小学校5校11作品、中学校4校14作品の応募がありました。審査の結果、小学校の部で南小学校6年の林愛結さんが“社会を明るくする運動”島根県推進委員会委員長賞（1位）に、中学校の部で広瀬中学校3年の吉田奈央さんが島根県更生保護女性連盟会長賞にそれぞれ選ばれました。おめでとうございます。



母里小学校（5年生）では、毎年地域の方々の協力を得て、お米が出来るまでの体験学習をしています。今年もおいしいお米が出来ました。



会員研修

伯太地区更生保護女性会
会長 渡辺 慶子



安来地区更生保護女性会
副会長 山崎 光恵

私たちは毎年、会員の研修に力を入れています。

前期は総会を兼ねた視察研修ですが、今年度は米子市にある美保学園で研修しました。想像とは違い、普通の民家のような開放的な施設で伸び伸びと生活しているようでした。

これは、少年たちと先生方の信頼関係が強いからだと感じました。また、自分達の農園で野菜を作り、販売をしているとのこと。地域の人とのつながりが深いように見受けられるとの感想が多くありました。

後期の研修は、保護観察所の安藤太統括保護官に講話をしてもらいました。

私たち更生保護女性部の役割を聞き、改めて更生保護や健全育成の大切さを学んだ研修でした。



この度、会員視察研修に、米子市泉にあります鳥取県立喜多原学園へ34名の会員で出かけました。大山道路の道筋にあり、昔は林の中のうす暗い感じで余りいい印象はなかったのですが、今は近代的な施設で私の想像は大きく覆されたのです。それは私一人ではありませんでした。広大な大山の麓の大自然の中、いろんな木々が植えられており、四季を感じる事が出来るでしょう。女子寮の一角に干柿が作っており、ほのぼのとしました。年頃の子供たちの寮はきつちりと管理されていました。事前に田中園長さんより説明を受け、園内を案内していただいたのです。少し自由すぎる様にも思えたのですが、園長さんのお話を聞いてこの施設の子供たちは職員の方々の温かい指導の眼差しに見守られ幸せな毎日があるのだと強く思いました。

長い人生のほんのひとときが、大きな希望と素晴らしい未来へとつながるのではないのでしょうか。私たちの日頃の活動に素晴らしいヒントを頂きました。期待通りの研修に施設の方々に感謝し、玄関前のななかまどの実に見送られ、研修を終えました。



「退任をして」

上田 眞實

私が保護司とならせて頂いたのは、昭和58年3月16日、赤江地区の石川先生と二人が新任の辞令を頂きました。声を掛けて下さったのは当時の伯太町更婦会長をつとめておられた、梶谷ヒデ子先生でした。先生は私が小学校へ入学以前から母里小学校の教師をつとめておられました。式典の時には和装でとてもキラッとした態度でおられた先生でした。その先生が来訪して下さり、前任者の急な死去で後

任者を早く選任しなければならず、あなたが適任だと思っただ、とのことで保護司のなるかを熱心に説明し、お誘い下さったのです。私も以前からなにか他人の為になることが出来たら、と思っっていましたので、お引き受けしました。早いもので34年間も在籍をいたし今年退任をいたしました。その間何人かの対象者を観させて頂きました。少年は良好解除、成人の場合は満期まで、とその後真面目に生活をしているのか等、と当時の事を思ったりいたします。社会の一助になれたのか解りませんが貴重な体験をさせて頂けたと喜んでいてこの頃でございます。

顕彰式典で受彰

11月15日に松江市総合福祉センターで平成29年度島根県更生保護顕彰式典が開催され、次の方々受彰されました。おめでとうございます。

●中国地方更生保護委員会 委員長表彰

- 法務大臣表彰
 - 榊野 光 範
 - 田 中 壽美夫
- 全国保護司連盟理事長表彰
 - 田 中 紀 子

- 松江保護観察所長表彰
 - 安 達 紘 二
 - 今 井 昭 紀
 - 遠 藤 史 則
 - 岩 崎 美 枝 子
 - 山 崎 光 恵
- 島根県保護司会連合会 会長表彰
 - 葉 田 茂 美
 - 柏 眞 知 子

第17回「どじょうつかいカップ大会」

この大会は平成13年度から青少年の親善と健全育成を図る目的で安来地区保護司会が「社明運動」の一環として共催しています。今年も安来市周辺のスポーツ少年団がたくさん集まり熱戦が展開されました。

○野球大会

今年は、台風の影響がある中、10月21日、28、29日にあらえつさ球場を主会場に、27チームが参加して実施されました。昨年度から、6年生の選抜の部と5年生以下による新人の部に分かれて実施されました。その結果、選抜の部の優勝は、倉敷選抜、準優勝は大田市選抜でした。また、新人の部の優勝は、会見スポーツ少年団と西伯スポーツ少年団、準優勝は赤江・島田合同チームと淀江スポーツ少年団野球部で田中保護司会副会長からカップとメダルが授与されました。



○ハレーボール大会

10月9日に安来市民体育館を主会場にして、遠くは岡山など20チームが参加して熱戦が繰り広げられました。その結果、優勝は伯太クラブジュニア、準優勝は赤江リーダーズ、3位は、しまねマリンWISHとえんやジュニアバレーボールクラブでした。地元安来市のチームの健闘が光りました。



○剣道大会

11月19日に安来市民体育館で開催されました。

保護司の異動

退任保護司

平成29年5月30日 上田 眞實(伯太)

新任保護司

平成29年6月1日 上田 宏充(伯太)

部会名簿

(平成29年11月1日現在)

総務部会

秋間 近夫 田中壽美夫

村社 征利 楫野 光範

原 玉子 少林 浩道

小村 修司

研修部会

岩崎 哲久 田中 篤美

安達 紀雄 仙田 芳弘

福田 瑞枝 永島 均

小池 清水 葉田 茂美

犯罪予防部会

上田 宏充 藤原 常義

細田美佐子 今井 昭紀

柏 眞知子 安部 良江

岩崎美枝子 山崎 光恵

藤島 義信

協力組織部会

矢田 博美 遠藤 史則

安達 紘二 佐瀬 宏洋

山崎 武道 岩田 京子

倉本 洋子 池上 幸秀

訃報

当保護司会副会長を長らくお務めいただきました岩田拓郎様が10月15日に逝去されました。心からご冥福をお祈り致します。

